はよく梳してあり、其齒は雪の如く白く見え、自分の名を書かせた時に墨を摺り飛ばさず、又指を汚ごさなかつたわ不精者や不注意者の出來る事でわない、して見れば僅かに十分間でわあるものゝ予が視察した所は、贅辭の溢れるばかりの數十本の紹介狀に勝るは万万でわあるまいか？！

口ばなし

近眼と石地藏

或時近眼が石地藏の前へ來まして、（近眼）アノ一寸お尋申します、この次の町までどの位ございますか。（地藏）……（近眼）もし〳〵次の町までは　まだどの位ございますか（地藏）……（近眼）はてなこの人は聾か知らん、もし〳〵、これは怪しからん人に散々物を言はせておいて　何時までも默つて居る、と怒つた機會に石地藏の頭に駐つて居た烏が飛んだのを見て（近眼）人に道を敎へないから、僕も帽子の飛んで行つたのを知らせて遣らないんだ。

前號考へ物の解

（一）Unite（結び付ける）といふ言葉の中、一字だけ置代へると全く反對の語になるのは。答。iとtとを置代へるとUntie（ほどく）となります。

（二）自分のものであつて、自分よりも友達に多く使はれるものは、答。自分の名。

（三）背の高い人は、いつも怠者だといはれる譯は。答。寢床へ這入ると、いつでも人よりも長いから。

この次の考へ物

(一)黑い羊は、白い羊よりも、草食ふことが少いといふ譯は？

(二)足なくて走るものは？

母の言葉

高木四郎

母の兒童に對する言葉の、今日の一般をみると、兒童に對して、母の言葉が多すぎる樣である。多すぎると、從つて、母の言葉に勢力がなくなる。勢力がなくなると、母の言葉が、兒童の言葉のために斃される。また、言葉の數が多すぎると、自然、取り消しをしなければならない場合が多く出來る。そこで、母の言葉の、取り消しだの、敗北だのが、度重なると、その兒童は、世にいふ、言ふ事を聞かない兒となるのである。

兒童が、親の言ふ事を聞かないと言ふ事は、最も恐るべき事で、兒童のために、此の上もない危險である。兒童は、熱いものを知らず、怖いものを知らず、やゝ成長しても、病の恐るべき事を知らねば、どーしたら病に罹るのかをも知らない、であるから勿論命といふ事を知つて居るはづはない。また、池の緣に臨んで、落ちると恐しいといふ事は、よし知つても、かうすれば足が辷るとい